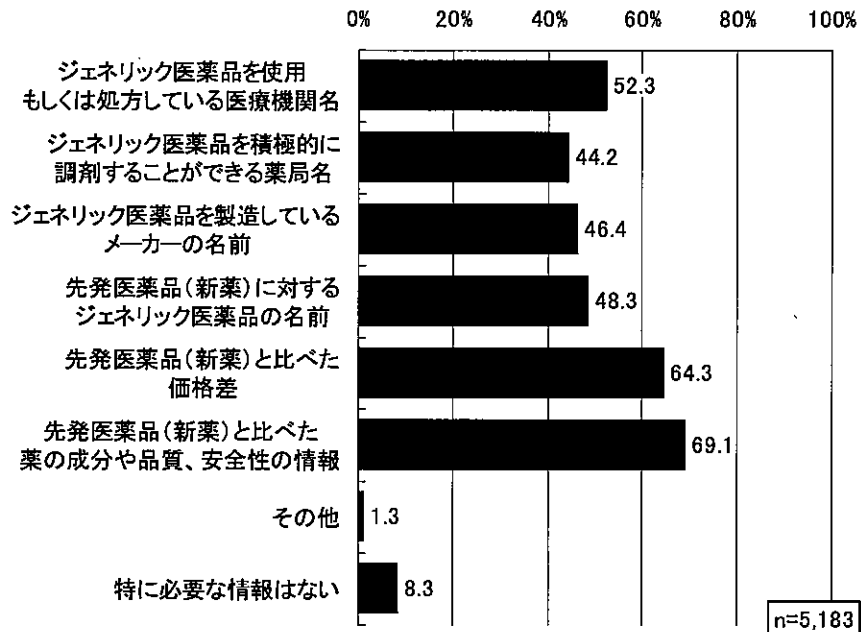


(20) ジェネリック医薬品について必要な情報

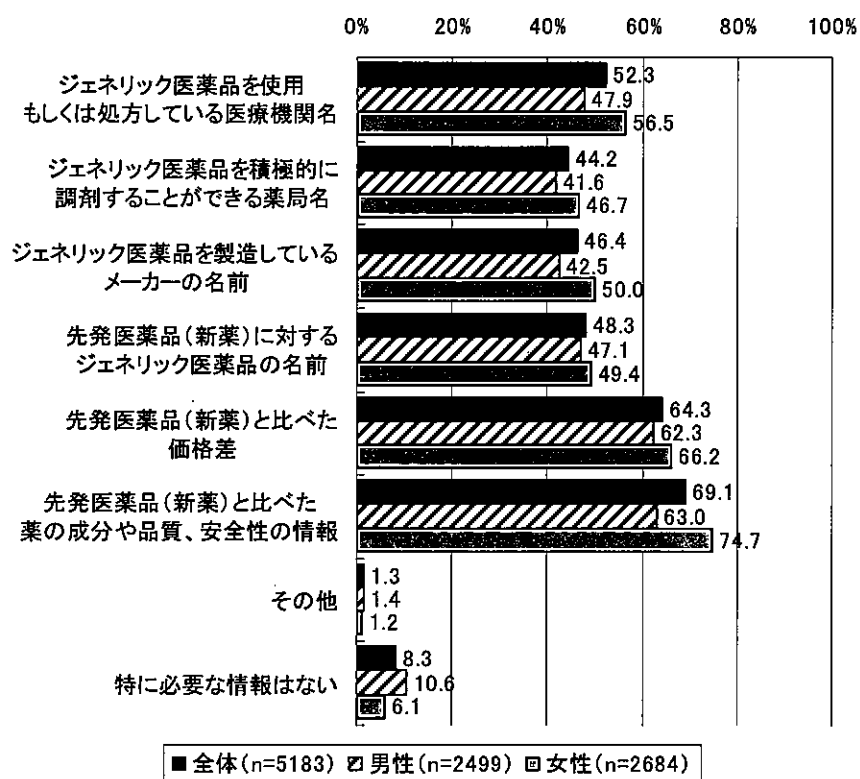
ジェネリック医薬品についてどのような情報が必要かについてみると、「先発医薬品(新薬)と比べた薬の成分や品質、安全性の情報」(69.1%)、「先発医薬品(新薬)と比べた価格差」(64.3%)、「ジェネリック医薬品を使用もしくは処方している医療機関名」(52.3%)の順となった。

図表 3-59 ジェネリック医薬品について必要な情報(複数回答)

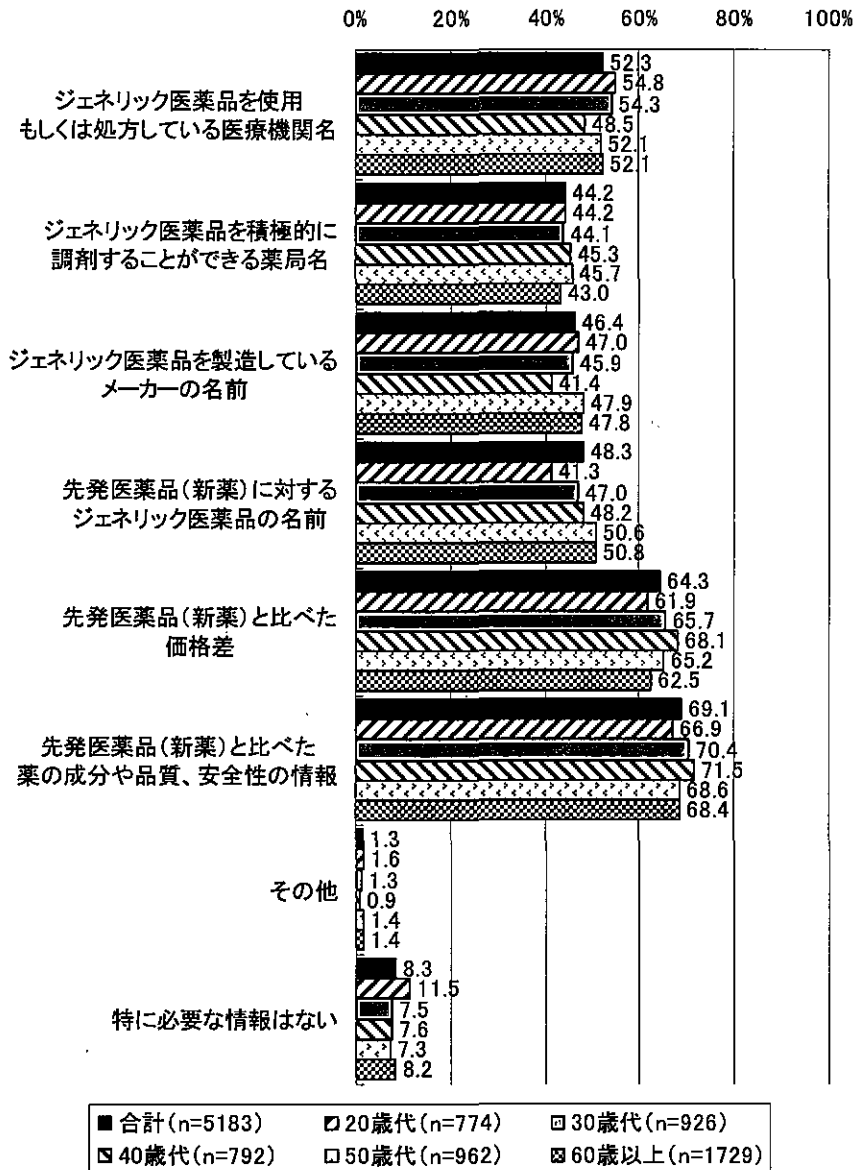


性別にみると、いずれの回答においても女性よりも男性の方が高くなっている。

図表 3-60 ジェネリック医薬品について必要な情報（性別、複数回答）



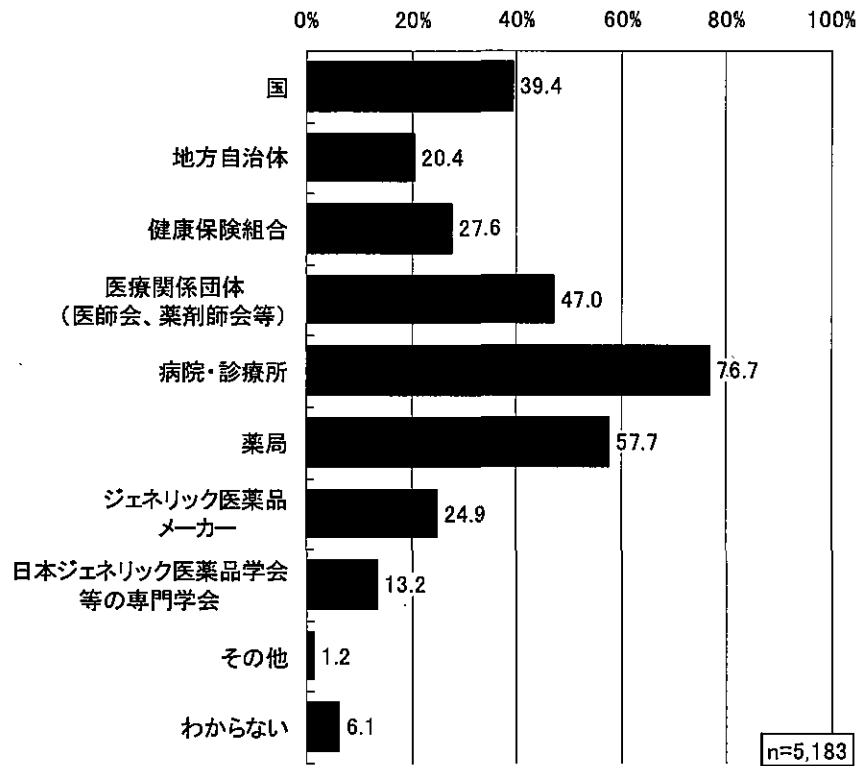
図表 3-61 ジェネリック医薬品について必要な情報（年齢別、複数回答）



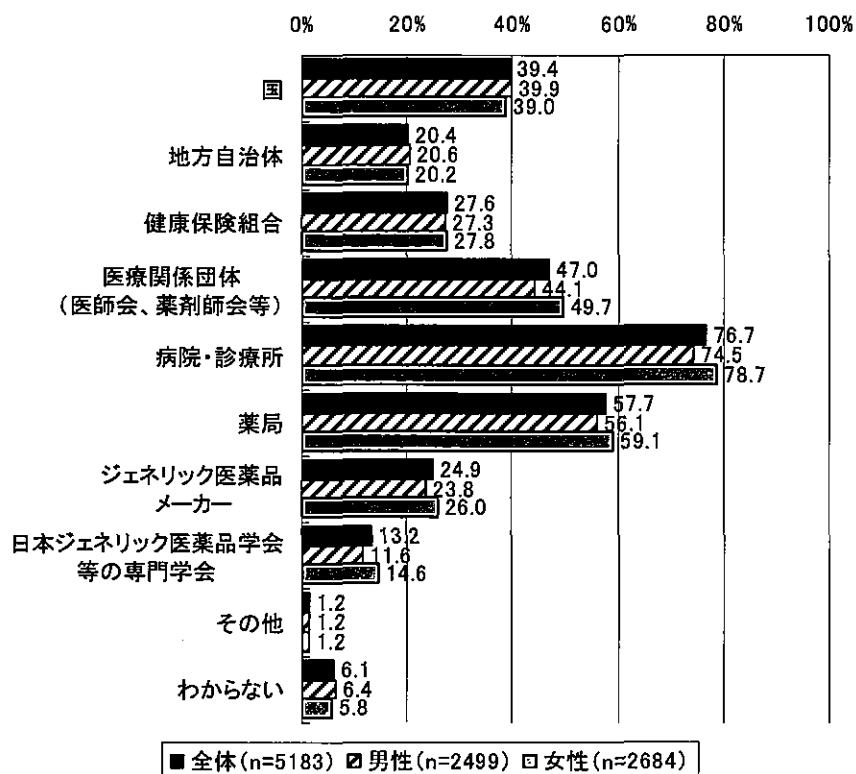
(21) 「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか

どこから受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるかについて尋ねたところ、「病院・診療所」(76.7%)が最も多く、次いで、「薬局」(57.7%)、「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」(47.0%)の順となった。

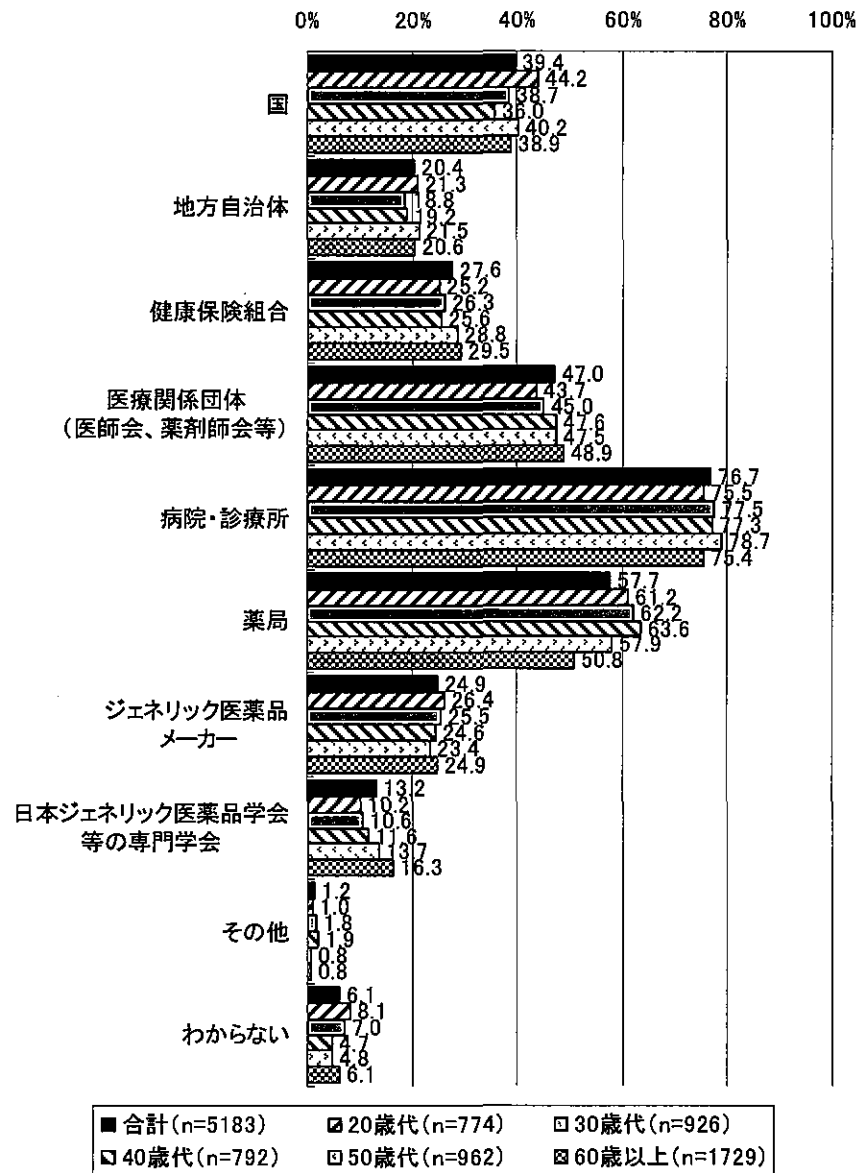
図表 3-62 「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか(複数回答)



図表 3-63 「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか (性別、複数回答)

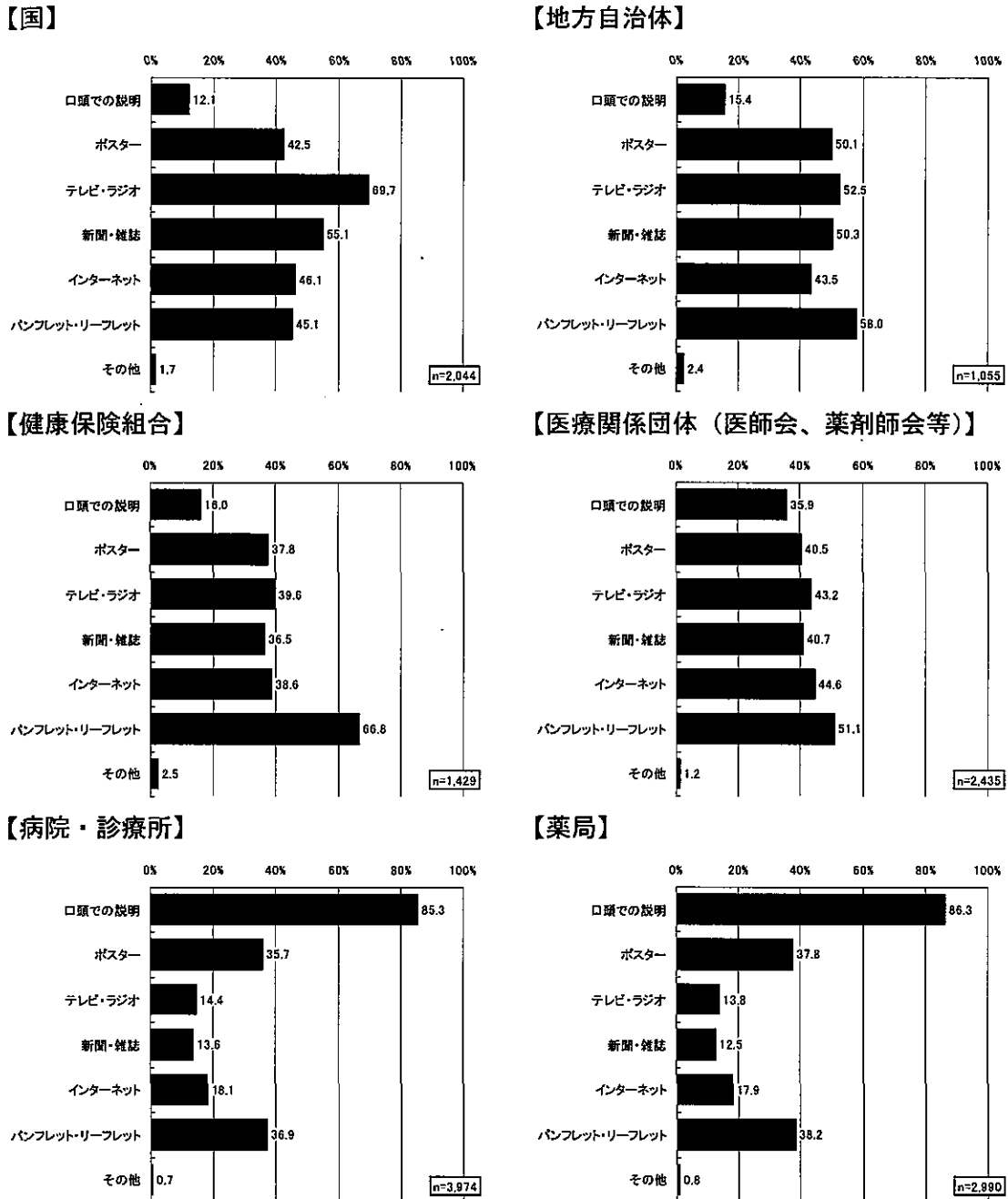


図表 3-64 「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか（年齢別、複数回答）

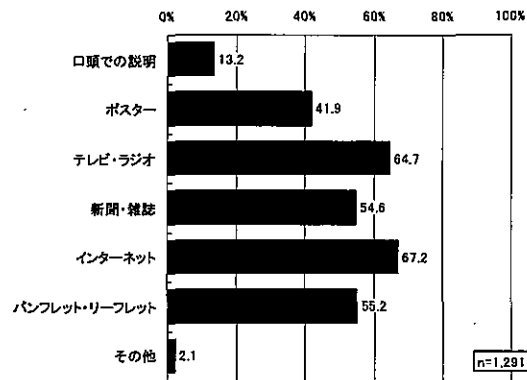


(22) 「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか  
 情報源ごとに「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるかについてみると、「病院・診療所」、「薬局」では「口頭での説明」が多くなっている。

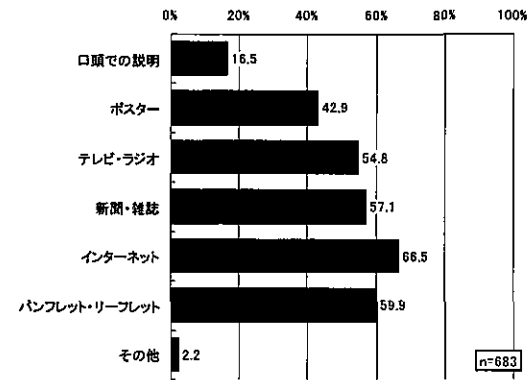
図表 3-65 「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか



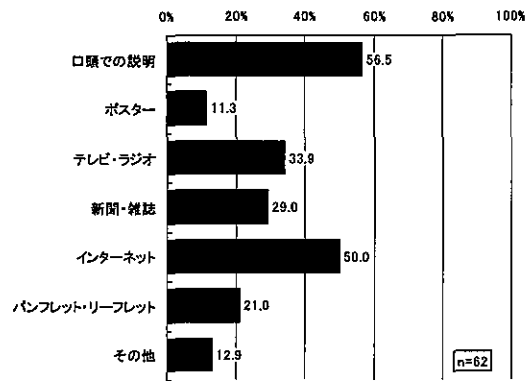
【ジェネリック医薬品メーカー】



【日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会】

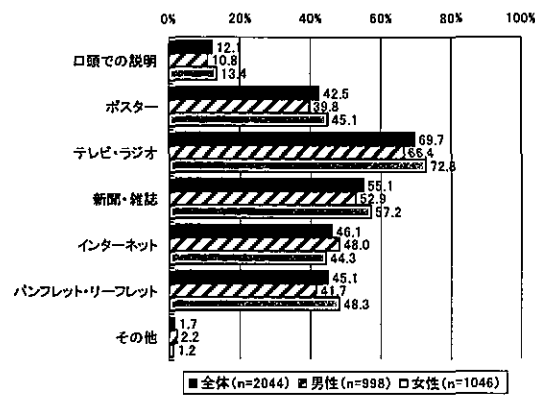


【その他】

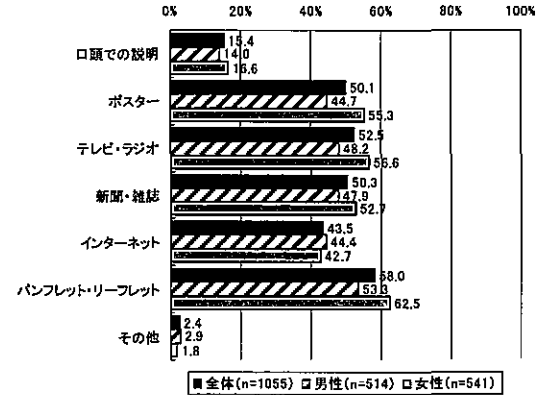


図表 3-66 「どのように」 受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか (性別)

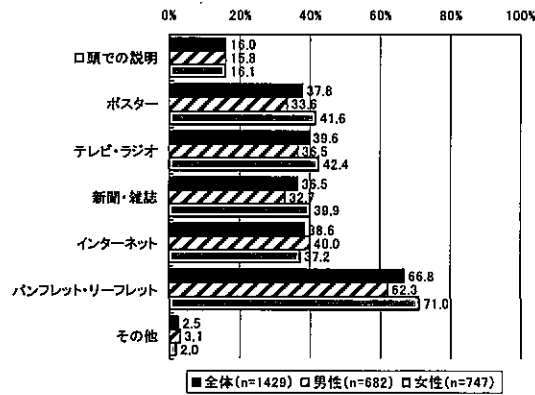
【国】



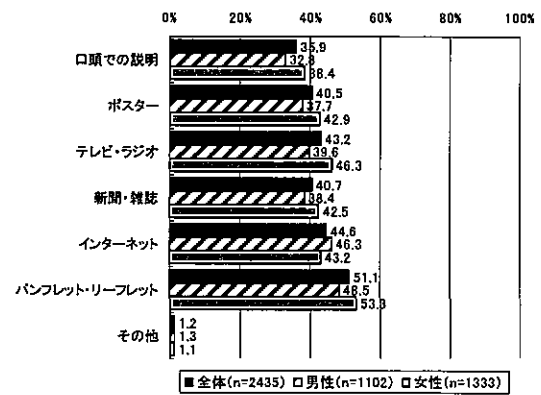
【地方自治体】



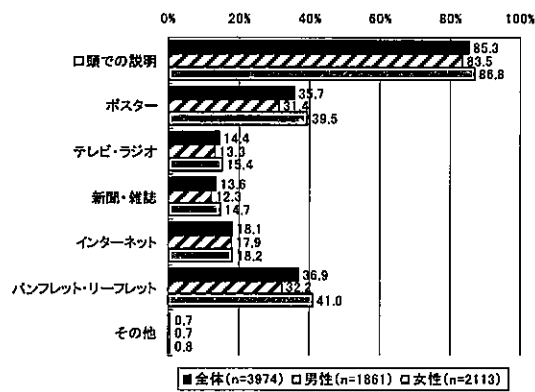
【健康保険組合】



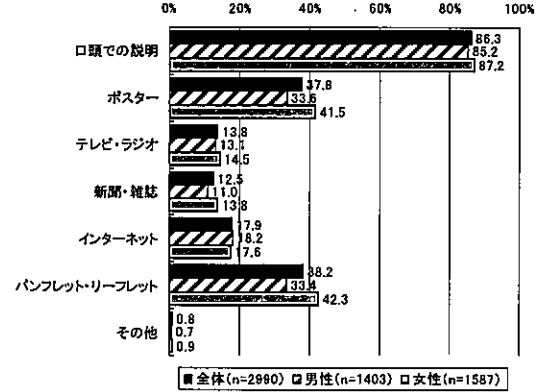
【医療関係団体 (医師会、薬剤師会等)】



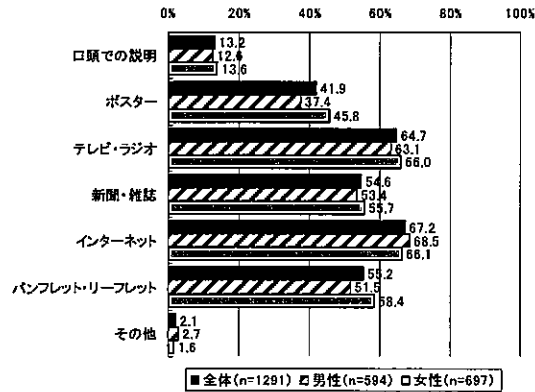
【病院・診療所】



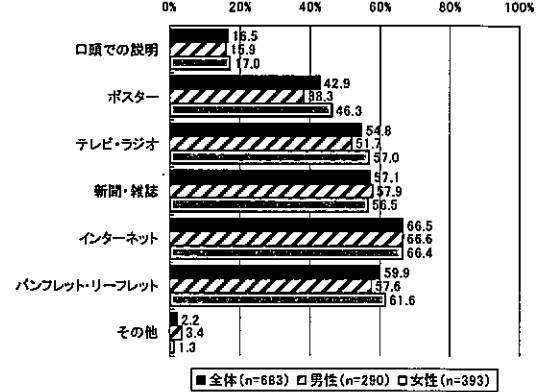
【薬局】



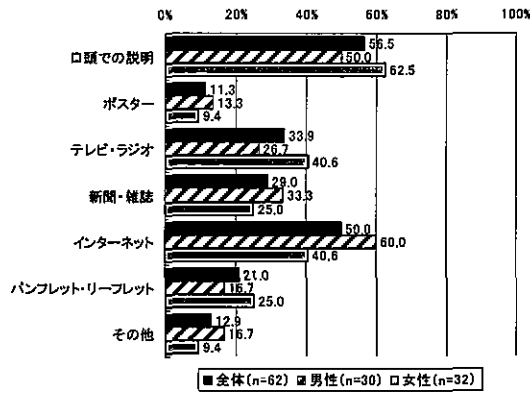
【ジェネリック医薬品メーカー】



【日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会】

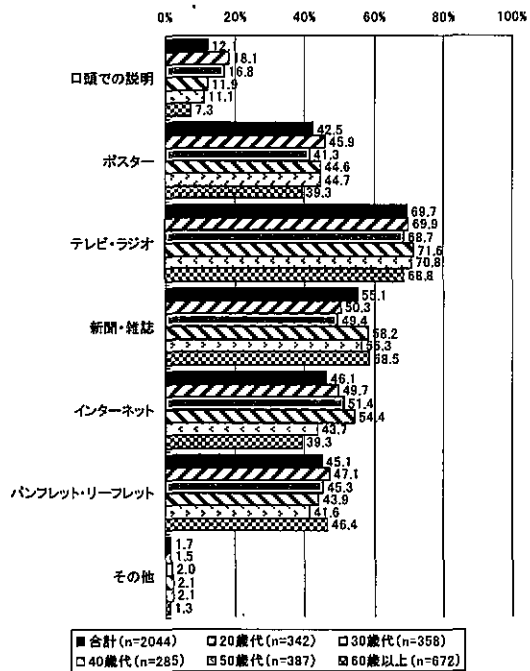


【その他】

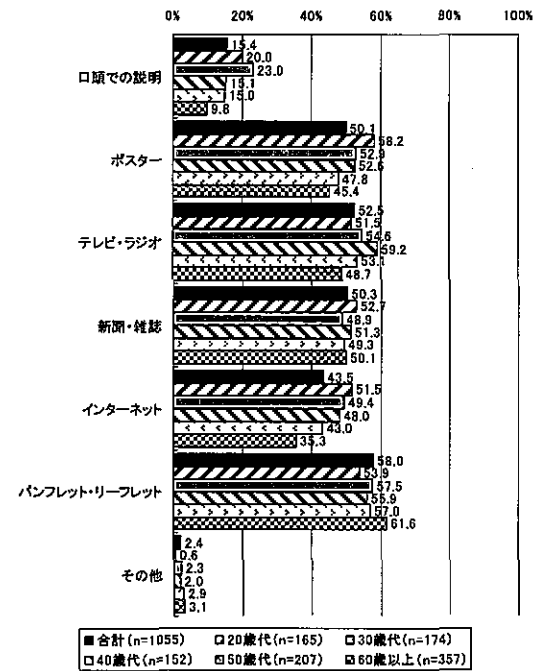


図表 3-67 「どのように」 受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか (年齢別、複数回答)

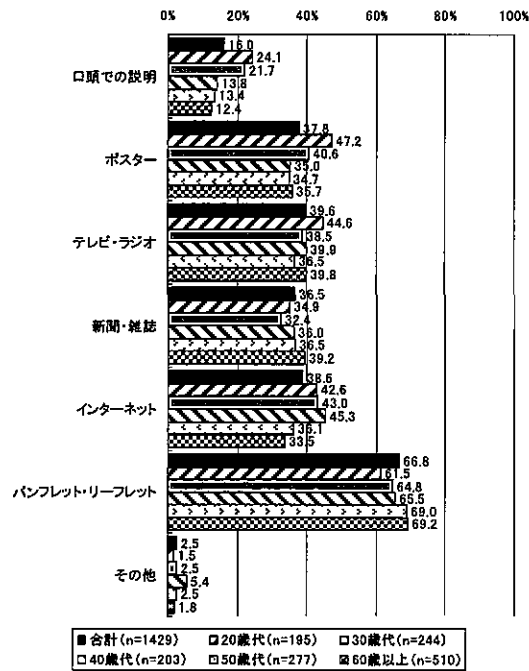
【国】



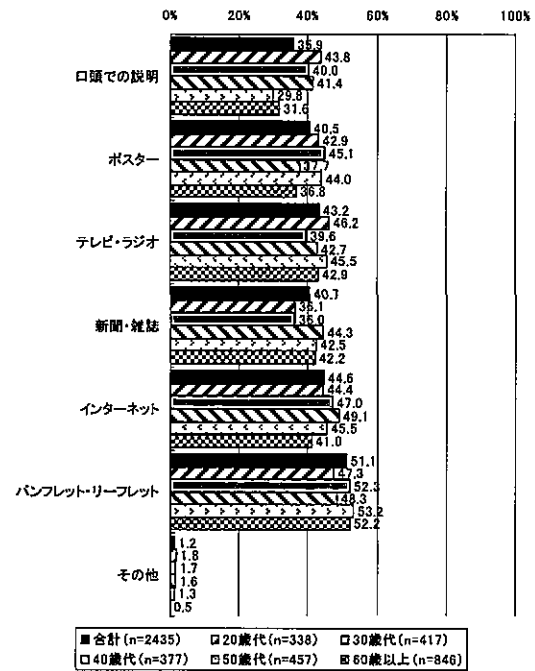
【地方自治体】



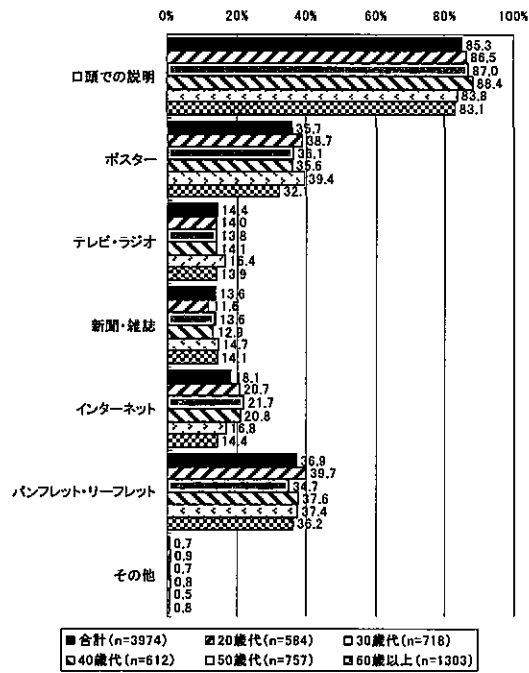
【健康保険組合】



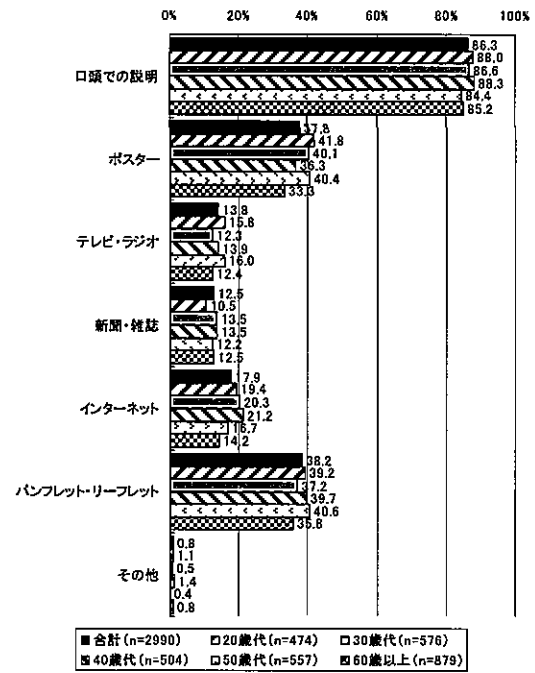
【医療関係団体 (医師会、薬剤師会等)】



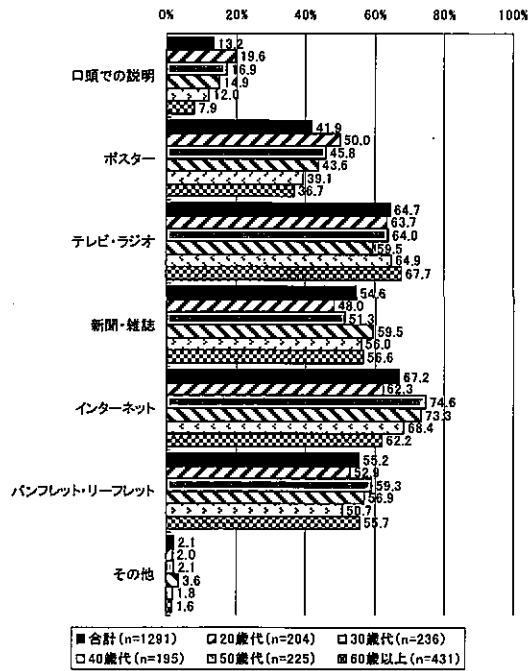
【病院・診療所】



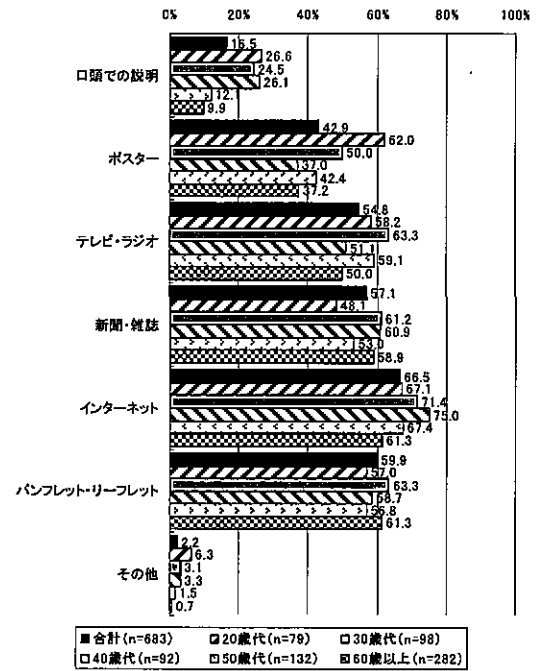
【薬局】



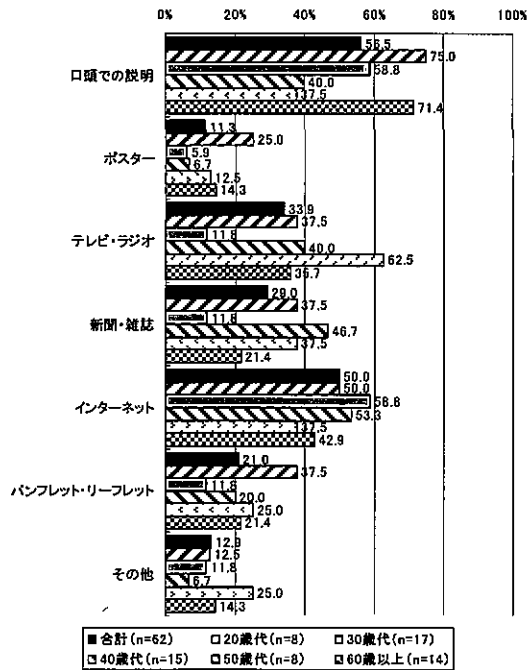
【ジェネリック医薬品メーカー】



【日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会】



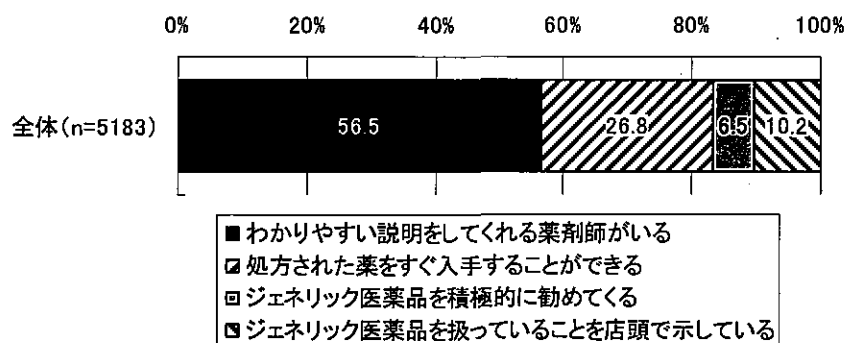
【その他】



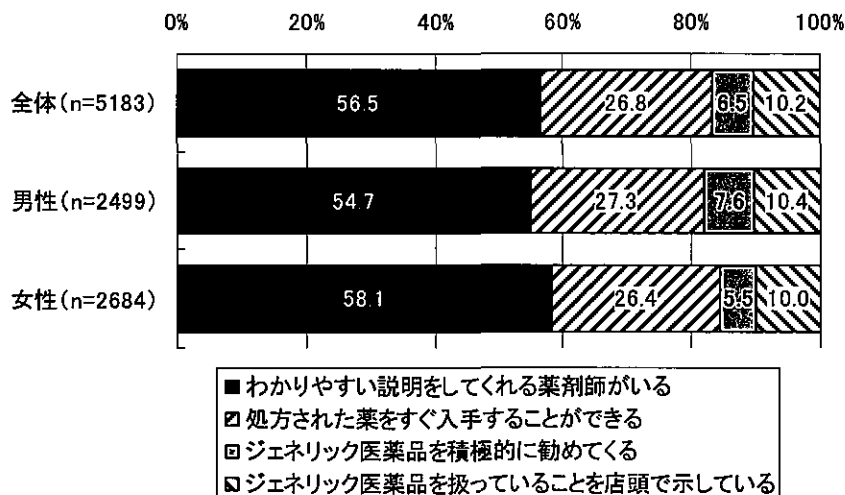
### (23) 薬局を選ぶ際に重視する項目

物理的条件以外で薬局を選ぶ際に重視する項目についてみると、「薬について丁寧に、わかりやすい説明をしてくれる薬剤師がいる」(56.5%)、「処方された薬をすぐ入手することができる」(26.8%)の順となった。

図表 3-68 薬局を選ぶ際に重視する項目

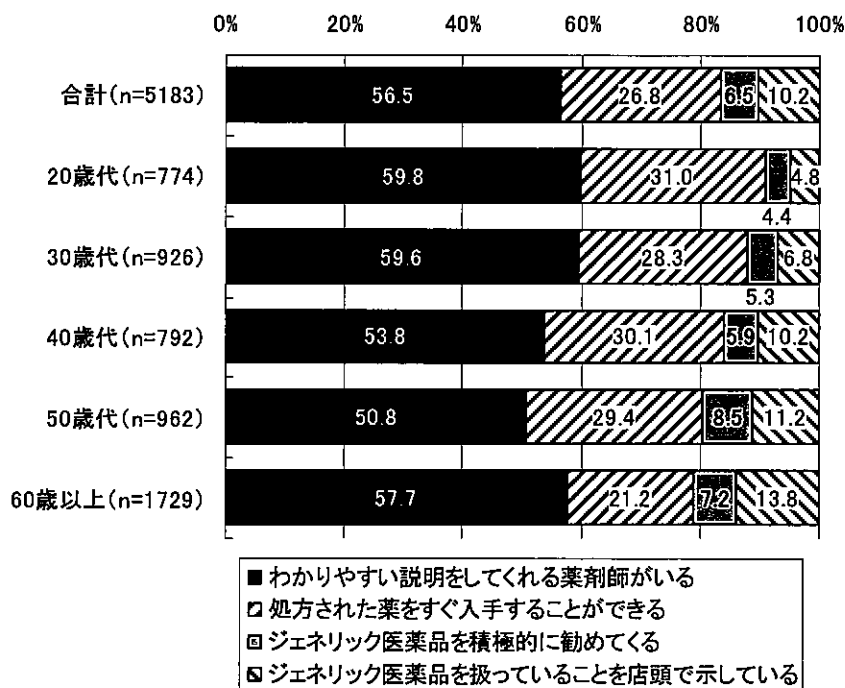


図表 3-69 薬局を選ぶ際に重視する項目 (性別)



年齢別にみると、「ジェネリック医薬品を積極的に勧めてくる」「ジェネリック医薬品を扱っていることを店頭で示している」については、年齢が上がるにつれ回答割合が高くなる傾向がみられた。

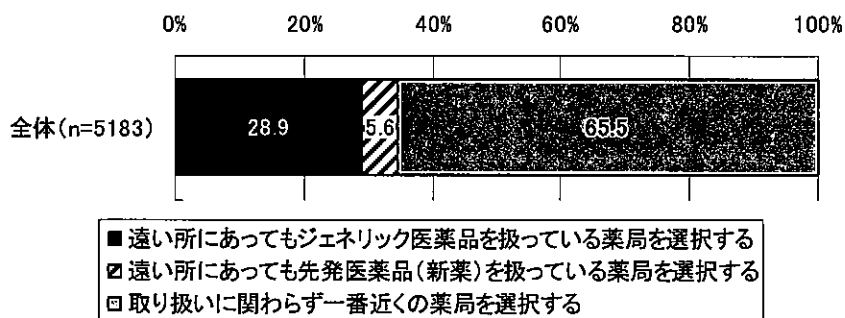
図表 3-70 薬局を選ぶ際に重視する項目（年齢別）



#### (24) 医薬品の取り扱い状況による薬局の選択

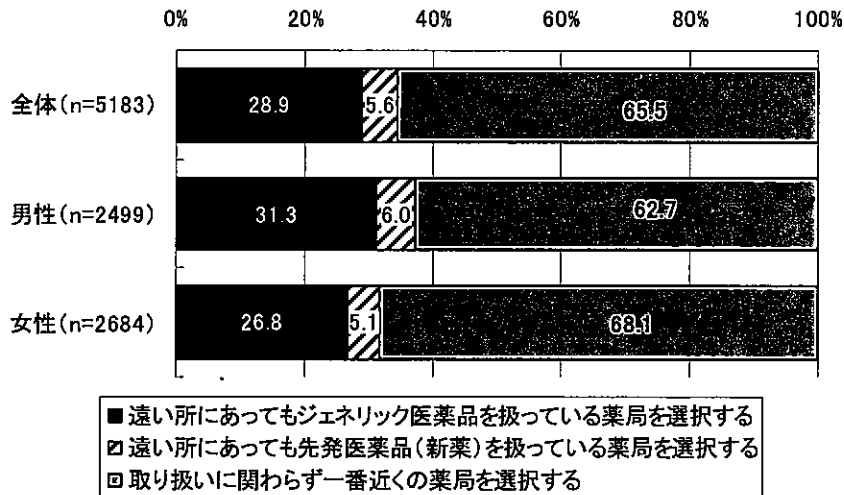
ジェネリック医薬品、先発医薬品（新薬）のいずれも選択できる場合、いずれの薬局を選択するかについて尋ねたところ、「ジェネリック医薬品、先発医薬品（新薬）の取り扱いに関わらず、一番近くの薬局を選択する」（65.5%）、「ジェネリック医薬品を積極的に扱っている薬局の方が遠い所にある場合でもジェネリック医薬品を扱っている薬局を選択する」（28.9%）の順となった。

図表 3-71 医薬品の取り扱い状況による薬局の選択



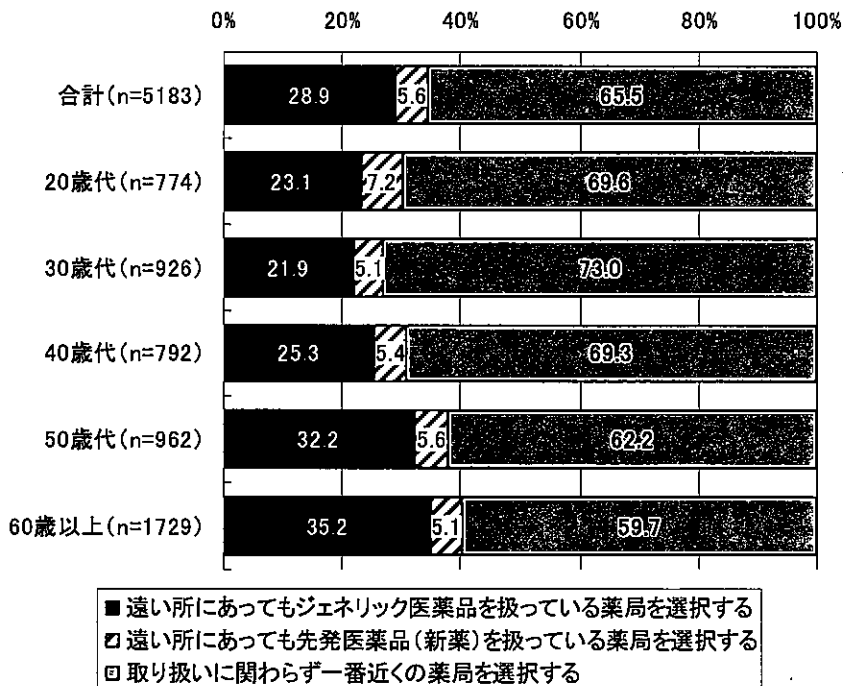
性別で見ると、女性に比べ男性の方が「ジェネリック医薬品を積極的扱っている薬局の方が遠い所にあってもジェネリック医薬品を扱っている薬局を選択する」と回答した割合が高くなっている。

図表 3-72 医薬品の取り扱い状況による薬局の選択（性別）



年齢別にみると、年齢が上がるにつれ「ジェネリック医薬品を積極的扱っている薬局の方が遠い所にあってもジェネリック医薬品を扱っている薬局を選択する」と回答した割合が高くなっている。

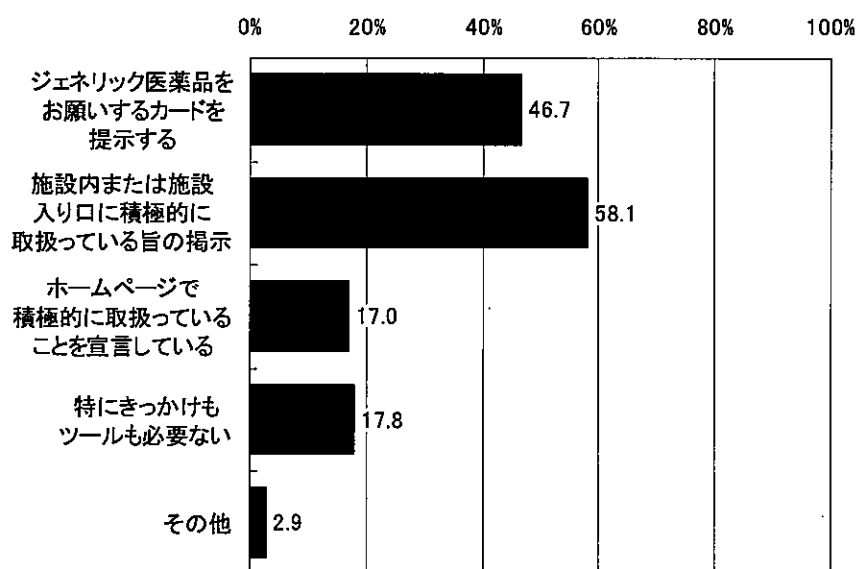
図表 3-73 医薬品の取り扱い状況による薬局の選択（年齢別）



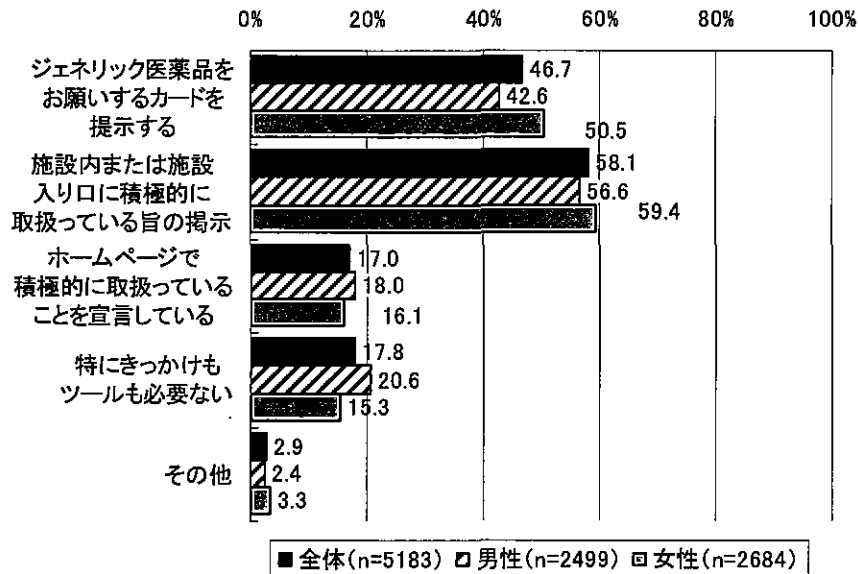
### (25) どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか

医療機関（病院や診療所など）や薬局で、どのようなきっかけがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいかについて尋ねたところ、「施設内または施設入り口にジェネリック医薬品を積極的に取り扱っている旨の掲示または宣言がされている」（58.1%）が最も多く、次いで「ジェネリック医薬品をお願いするカードを提示する」（46.7%）の順となった。

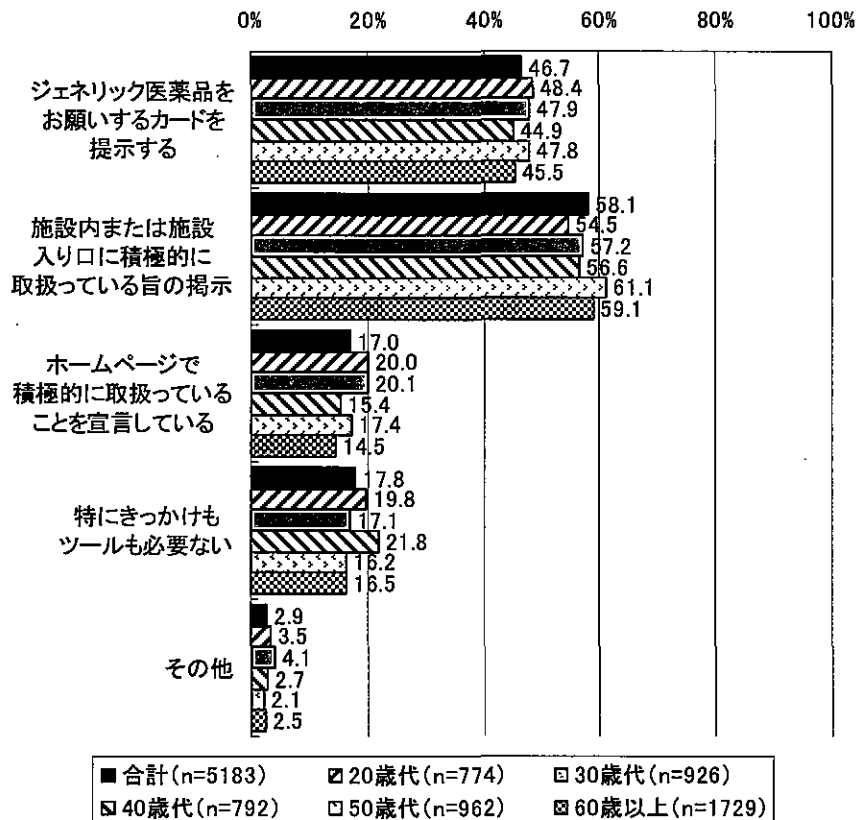
図表 3-74 どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか  
(複数回答)



図表 3-75 どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか  
(性別、複数回答)



図表 3-76 どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか  
(年齢別、複数回答)



### III. まとめ

本調査研究では、医療機関については文献で、一般国民についてはインターネットによるアンケート調査によって把握した。

医療機関における後発医薬品使用の現状について「社会医療診療行為別調査」をもとに分析した結果、後発医薬品明細書出現率、薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合とともに、病院よりも診療所の方が高くなっている。また、病院の施設類型別にみると特に特定機能病院でその割合が低くなっている。また、診療科別では、特に「耳鼻咽喉科」においてその割合が高くなっている。

また、日本ジェネリック製薬協会の調査では、平成 19 年度の後発医薬品のシェアは数量ベースで 17.2%となっており、政府目標である「平成 24 年度までに、後発品の数量シェアを 30%以上」に対しては、6 割程度となっている。

医療機関における後発医薬品使用に関する病院の施設としての対応は、個々の医師の判断に委ねるのではなく、施設として積極的に使用していこうという病院の割合もわずかながら増えていた。また、平成 20 年 4 月の処方せん様式の変更を受け、「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由を「品質が不安だから」「先発医薬品を長く使用し信頼しているから」「効果や副作用の違いを経験したから」となっている。

後発医薬品の処方に対しては、特にこだわりはなく、また、患者からの要望があっても後発医薬品は基本的に処方しないと考えている医師も減りつつある傾向が見られた。患者から要望があっても後発医薬品を処方しない理由としては、「品質への疑問」「効果への疑問」「情報提供の不備」が理由となっている。これは、後発医薬品を取り扱っている卸売業者の結果からも見ることができる。

一般国民への後発医薬品の認知は進んでいるが、実際に後発医薬品を処方されている人はまだ少ない。一方で、後発医薬品を使用した経験のある人ではその満足感が高く、今後も後発医薬品を使用したいと考えていることが明らかとなった。

平成 20 年 4 月の処方せん様式の変更により、処方せんの変更不可欄に処方医の署名等がない処方せんについては薬局で後発医薬品への変更が可能となっているが、薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験がない人が多くなっている。しかし、後発医薬品の使用意向については、多くの人々が後発医薬品を使ってみたいと考えている結果となった。今後後発医薬品を使用するに際して必要なことは「効果があること」「副作用の不安が少ないこと」「窓口で支払う薬代が安くなること」となっている。

後発医薬品の広報についてみると、求められている情報は、医療機関、一般国民ともに、「先発医薬品（新薬）と比べた薬の成分や品質、安全性の情報」となっている。現状の、「安くなる」、「（効果は）同等である」といった内容だけでなく、副作用も含めて広く安全性について周知することが必要である。広く周知するためには、医療機関、薬局での口頭による説明、メディアの利用などさまざまな方法を使えばよいが、一般国民が初めて後発医薬品を使用するきっかけは、医師・薬剤師の勧めが多く、自分から医師・